

インフルエンザワクチンの予防接種について

インフルエンザワクチンの予防接種を実施するに当たって、受けられ方の健康状態をよく把握する必要があります。そのため、表面の予診票に出来るだけ詳しく記入ください。

お子さんの場合には、健康状態をよく把握している保護者をご記入ください。

【ワクチンの効果と副反応】

予防接種により、インフルエンザの発病を阻止したり、インフルエンザによる合併症や死亡などを予防することが期待されます。

一方、副反応は一般的に軽微です。注射部位が赤くなる、はれる、硬くなる、熱をもつ、痛くなる、しびれることがあります。通常は2～3日で消失します。発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐・嘔気、下痢、関節痛、筋肉痛なども起こることがありますが、通常は2～3日で消失します。過敏症として、発疹、じんましん、湿疹、紅斑、多形紅斑、かゆみなどもまれに起こります。強い卵アレルギーのある方は、強い副反応を生じる可能性がありますので、必ず医師に申し出てください。非常にまれですが、次のような副反応が起こることがあります。

- (1) ショック、アナフィラキシー様症状(じんましん、呼吸困難など)
- (2) 急性散在性脳脊髄炎(接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など)
- (3) ギラン・バレー症候群(両手足のしびれ、歩行障害など)
- (4) けいれん(熱性けいれんを含む)
- (5) 肝機能障害、黄疸
- (6) 喘息発作

このような症状が認められたり、疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。

なお、健康被害(入院が必要な程度の疾病や障害など)が生じた場合については、健康被害を受けた人又は家族が、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構法等に基づいて救済手続きを行うことになります。

【予防接種を受けることができない人】

1. 明らかに発熱のある方(37.5℃を超える場合)
2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
3. 過去にインフルエンザワクチンの接種を受けて、アナフィラキシーを起こしたことがある方。
なお、他の医薬品投与を受けてアナフィラキシーを起こした人は、接種を受ける前に医師にその旨を伝えて判断を仰いでください。
4. その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した方

【予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人】

1. 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などのある方
2. 発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている方
3. かぜなどのひきはじめと思われる方
4. 予防接種を受けたときに、2日以内に発熱の見られた方及び発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う異常がみられた方
5. 薬の投与または食事(鶏卵・鶏肉など)で皮膚に発疹がでたり、体に異常をきたしたことがある方
6. 今までにけいれんを起こしたことがある方
7. 過去に本人や近親者で検査によって免疫状態の異常を指摘されたことがある方
8. 妊娠の可能性のある方
9. 気管支喘息のある方

【ワクチン接種後の注意】

1. インフルエンザワクチンを受けたあと30分間は、急な副反応が起きることがあります。
医療機関にいるなどして、様子を観察し、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
2. 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
3. 接種当日は、接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。
激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
4. 万一、高熱やけいれん等の異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。